

助成対象活動報告シート

団体名：なごや寺町まちづくり協議会

平成29年度地域まちづくり活動助成を受けて、以下の活動を実施した。

以下の活動は、各種アンケートが中心になっている。アンケートを行う理由は、東別院「てづくり朝市」開催開始の2013年6月以来5年間、その後開催し始めた各朝市を含め来場者の動態を調査することがなかなかできなかった。どの地域から朝市に来ているのか、周辺地域の人々がどれくらい朝市に訪れているのかはこれからのまちづくりを考える上で重要な事と考える。また、他地域からの来場者がどのような考えを持っているのかも重要な事と考える。また、まちめぐりガイドツアーに参加する地域文化や歴史への関心の高い層の意識を知ることが、地域の文化を考え継承する上で重要である。これらのアンケートの結果分析をさらにすすめ「まちづくり構想」の基礎資料とする。

(1) 「まちめぐりガイドツアー活動とその参加者へのアンケート」

毎月28日に東別院、日置神社周辺、西別院で開催されている朝市に合わせ、東別院から本町通を通って西別院までの名所旧跡を案内するガイドツアーを名古屋造形大学と地元住民が協力して行った。方法としては、メインスピーカーが全体の進行を行い、各所での案内は地元の間人が（その寺の住職など）が行ったりしながら10か所ほどのコースを約1時間かけて巡った。まちめぐりガイドツアーは、7月から2月までに8回開催した。助成対象としての学生を動員し、ツアー参加者を募集したり、ツアー参加者の列の安全を確保したりしたツアーを7月、9月、10月、12月、1月、2月の6回行った。各回の参加者は10人から30人だった。そのうち12月、1月、2月のツアー参加者へのアンケートを計3回行い、地域文化や歴史への関心の高い層の意識の把握をした。アンケート回答総数は、28通だった。

(2) 「大木戸フォーラム開催と参加者へのアンケート」

今回のテーマが葛飾北斎の大ダルマ絵という広いテーマの内容であったことが影響してか地域外からの参加者が多く、アンケート対象者が絞り込めず、配布は試みたが回収が一通しかできないという結果に終わってしまった。

日時：平成29年11月20日 午後6時30分 場所：西別院本堂 参加人数：約50名

(3) 「朝市来訪者へのアンケート」

このアンケートは、混雑する会場で実施するために、簡単に答えてくれる工夫をした。質問を簡単なものとし、アンケート形式は「シールアンケート」とした。会場で目をひくデザインのボードを用意し、質問はどこから来たのかに絞った。朝市会場周辺の人々、つまり、なごや寺町まちづくり協議会の活動地域の人々がどのくらい来ているのかが一つの関心事だった。アンケートは7月、9月、10月の3回行い1,799人から回答を得た。名古屋市の地図、名古屋市以外の愛知県を示す欄、それ以外の範囲を示す欄を用意し、特に中区と答えた方には、この地域周辺ですかの問いをし朝市会場周辺のどの辺りかを質問した。10月の回には上記の質問の他に何でこの朝市を知ったかを聞いた。3枚のボードを用意し、学生調査員5名から6名で10時から14時まで実施した。

(4) 「地域住民の意識調査アンケート」

いつから朝市を知っているか、どの程度朝市に行っているか、朝市で街が変わったかなどを聞いた。協議会の理事が中心になって、朝市会場周辺の住民への聞き取り調査でアンケートをした。短期間に90人から回答を得た。

(5) 朝市の来場者数調査

各朝市の来場者数調査は、東別院会場に3名、日置神社に2名、西別院に3名の学生調査員を配置して、10月、12月、1月、2月の4回実施した。調査時間は朝10時から午後2時までとし30分毎に累計数をカウントして記録した。歩いてくる人、車で来る人を別々の調査員が目視で確認してカウンターで数字を数えた。

2 活動の成果および目標達成度合い

活動の成果目標は以下の項目があった。

- ・ガイドツアーに参加する地域文化や歴史への関心の高い層の意識の把握をする。
- ・大木戸フォーラムに参加する地域文化や歴史への関心の高い層の意識の把握をする。
- ・東別院西別院周辺で行われる朝市参加者へのアンケート
- ・周辺住民の意識を把握するアンケート
- ・具体的な来場者数を把握する。
- ・以上のアンケートの集計をする。

「まちづくり構想」策定に向けた基礎資料作成を目指す。

大木戸フォーラムのアンケート回収以外は、これらの目標はおおむね達成できた。

3 活動により見えた課題

朝市は、朝市会場の周辺地域に一定の影響を与え、住民の意識が変化しているのが分かった。朝市に期待し、この地域に活気が出ることを望んでいることも分かった。そして、地域以外の人達は、この地域の歴史や文化や街の良さを感じている。しかし、

- ・城下町の古い歴史や文化が残る地域であるがその継承が困難になっており、今後ますます地域の特性が失われていくことが懸念される。
 - ・たくさんの地域資産（寺社や史跡）を有するが、地域の将来に向けての構想がないためそれらが生かしきれない。
- というこの街の大きな問題は今も変わらない。

今、朝市には多くの人々が来場している。この状況を地域住民は歓迎している。このような好条件がある時に、地道な活動で仲間や共感者を少しずつ増やしていくのが、課題である。

4 今後の活動等の展望

朝市は一過性のイベントから地域に大きな影響を与えている。このような状況をよく分析して、多くの人々と「まちづくり構想」を確立して、この街らしいまちづくりを目指したい。

助成対象活動報告シート

団体名： あつた宮宿会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

(1) あつた紙芝居第3弾「熱田物語」制作と熱田区全7小学校などでの上演会
熱田の誇り継承を目指す「あつた宮宿まちづくりビジョン」に基づき、熱田の歴史を次世代に伝えるため、あつた紙芝居第3弾「熱田物語」を制作し、昨年度に引き続き、熱田区全7小学校（大宝小学校・白鳥小学校・船方小学校・野立小学校・高蔵小学校・千年小学校・旗屋小学校）のほか、あつた朔日市「あつた芸能広場」や熱田区区民まつり（10月8日）、宮の浜市（11月26日）、熱田図書館などで上演しました。



(2) 紙芝居ウォーキング

2月18日（日）白鳥コミュニティセンターにて、あつた紙芝居「熱田物語」を上演後、紙芝居に出てくる熱田の各所を巡るツアーを開催。約30名の参加があり、4つのグループに分かれて移動しました。



(3) 「あつた宮宿まちづくりフォーラム 2018」開催

日時：2月10日（土） 場所：名古屋学院大学白鳥学舎クラインホール

概要：あつた宮宿まちづくりビジョンの発表とパネルディスカッション・意見交換を行いました。また、本フォーラムを踏まえて、「あつた宮宿まちづくりビジョン 2018」を

※ この様式は公開されます。

完成させ、小冊子にまとめました。



2 活動の成果および目標達成度合い

これまであつた宮宿会は、「あつた朔日市」をはじめとする熱田地区でのにぎわいまちづくり活動を推進する一方で、熱田神宮駅前地区および宮の渡し地区のまちづくり構想にも取り組んできました。3年間の助成の集大成ということで、フォーラムでは、伊勢の「おはらい町」のような門前町を目指そうとしている「熱田神宮駅前地区」とNHKブラタモリで改めて注目を集めつつある「宮の渡し地区」の、両地区のまちづくり構想の発表とこれからのまちづくりについての意見交換を主な目的に開催。150名もの来場者に恵まれ、目的も達成することができました。

3 活動により見えた課題

「熱田神宮駅前地区」および「宮の渡し地区」の両地区ともハード面でのまちづくりの課題がみえてきました。行政のサポートを受けながら、まちづくり協議会を設立して、地域住民・地権者の方々を巻き込んだ、まちづくり構想の実現に向けた動きが、次のステップとして求められています。

4 今後の活動等の展望

「熱田神宮駅前地区」については、この4月にまちづくり協議会を設立して、まちづくりビジョンを作っていきます。「宮の渡し地区」については、行政や名古屋学院大学と連携しながら、ビジョン実現に向けて、意見交換をする場づくりを検討します。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本工業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

助成対象活動報告シート

団体名：NPO 法人 久屋・エコまちネット

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

<夏 Café>

開催：2017/7/29 時間：15～17 時 参加費：3,000 円 (デザートセット) 参加者：33 名
場所：ホワイトメイプル前オープンカフェ (東区泉 1-14-23) カンツォーネを聴きながら～(宮澤優子、吉井あかね)

<秋 Café>

開催：2017/11/4 時間：12～14 時 参加費：1,500 円 or 2,500 円 (ランチ) 参加者：25 名
場所：ブラッスリー・アブサン (東区泉 1-12-33) ホサバを聴きながら～(スナフキンズ)



<ひまわりフェスタ 2017～北久屋マルシェ～>

開催：2017 年 10 月 21 日・22 日 (22 日は雨天のため中止。台風 21 号)
場所：久屋大通公園「ロサンゼルス広場・いこいの広場・リバーパーク・シドニー広場」



<先進地視察 (東京)>

開催：2017 年 11 月 17 日(金)・18 日(土)
場所：①千代田区立淡路公園とワテラス (案内人：藤井雄一安田不動産㈱) & (一般社)淡路エリアマネジメント
②UDCK 柏の葉キャンパス アバンデザインセンター (案内人：ディレクター 遠藤翼、坂本朋子)
③南池袋公園
④日本財団ソーシャルイノベーションサミット部会「ひらく公園」会場：東京国際フォーラム
⑤代官山 (蔦屋) ⑥表参道



<アンケート調査依頼>

日にち：①2017 年 7 月 29 日 (夏 Café)・②2017 年 11 月 4 日 (秋 Café)

③2017 年 10 月 22 日 (ひまわりフェスタは台風の為中止)

愛知学院大学名城キャンパス 経営学部 鵜飼宏成 研究室依頼



① *夏 Café 秋 Café

まちが持つ魅力に人々の想いが上手く一致したイベントであり夏 Café は多くの人々から賛同を得ることができた。オープンカフェは日本人において非日常的な空間であり、「飲食+音楽」を演出する事で皆が和気あいあいと楽しく心弾む時間の創出が出来た。目標はアンケート結果からしてほぼ達成。SNS 等での発信は参加者の年齢が高く、SNS 自体をやっていない人が多かった。

② ひまわりフェスタ 2017～北久屋マルシェ～

台風 21 号接近の状況下、キッズダンス、ハンモック等は中止、マルシェのみ開催（出店者のキャンセル相次ぐ）。1 日のみ開催も風雨荒天により来場者数はごく僅か。22 日実施予定のアンケート調査も不実行。“遊びに行きたくなる魅力の発信拠点”を目指す活動であったが天候によりその成果は得られなかった

③ アンケート調査

通行人の方々には、アンケートボードにシールを張ってもらう方法。Café 参加者からはペーパー記入方式でのアンケート調査を行なった。調査分析結果は別紙。

④ 先進地視察

法政大学の保井美樹教授に視察場所の提案を頂いた。目的はエリアマネジメント他について

* 千代田区立淡路公園とワテラス

ワテラスと区立淡路公園の一体活用について（一社）淡路エリアマネジメントさんに話を伺った。安田不動産が開発され企業が行なうマネジメントを見せて頂いた。

* UDCK 柏の葉キャンパス

東京大学と柏市、三井不動産で運営するまちづくり組織についてスタッフとトーク。抱えている問題点や今後の課題等について意見交換した。

* 南池袋公園

18 日が雨予想の為 17 日夕方視察。

* 日本財団ソーシャルイノベーションフォーラムの分科会「公園活用」出席（会場：東京国際フォーラム）

* 代官山（蔦屋）

文化の森を目指したまちを見事に作っている蔦屋の視察。

企業が提案するライフスタイルの提案の場とまちが上手くマッチングしている様子を見学。

* 表参道 南表参道を中心に視察

3 活動により見えた課題

公園や歩道を対象とした屋外活動であり天候は無視できない現実。今回はその点に意識を向けることとなった。秋 Cafe は風荒天でかなり寒く、屋外開催のオープンカフェイベントのデメリット部分が露呈された。演奏者やお店の仕込み等を考え中止にできず、強行突破したことでかえって参加者の皆様にご迷惑をかけ、オープンカフェのイメージを悪化させた。東京視察は運営組織から実際に生の声を聞くことができ、とても刺激になったと同時に自分たちの未熟さも感じた。問題点としては、活動の継続と資金、人材という点について今後の大きな課題になると感じた。

4 今後の活動等の展望

今後においてはエリアマネジメントとして活動を行なっていくこと。地域性を活かした活動を展開し、地域の個性を大切にしていける事こそが無理なくエリアの価値を向上させると考える。なんでも有りの活動ではなく地域の軸を決め活動する内容も確固たるものを見極めたいと思う。まちづくりは簡単なものではなく継続してこそ認められ根づくものである。一人の力では何ともならず、地域や企業と連携し多くの人を巻き込み協力体制を作ることが大切であり、閉鎖的なまち意識を開放し柔軟なる思考が大切と考える。北エリアの面的活力へと結びつくよう助成金を得て学んだ事を活かしていきたいと思う。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本工業規格 A4 とする。

助成対象活動報告シート

団体名： 藤巻町自治会

1 助成を受けて実施した活動

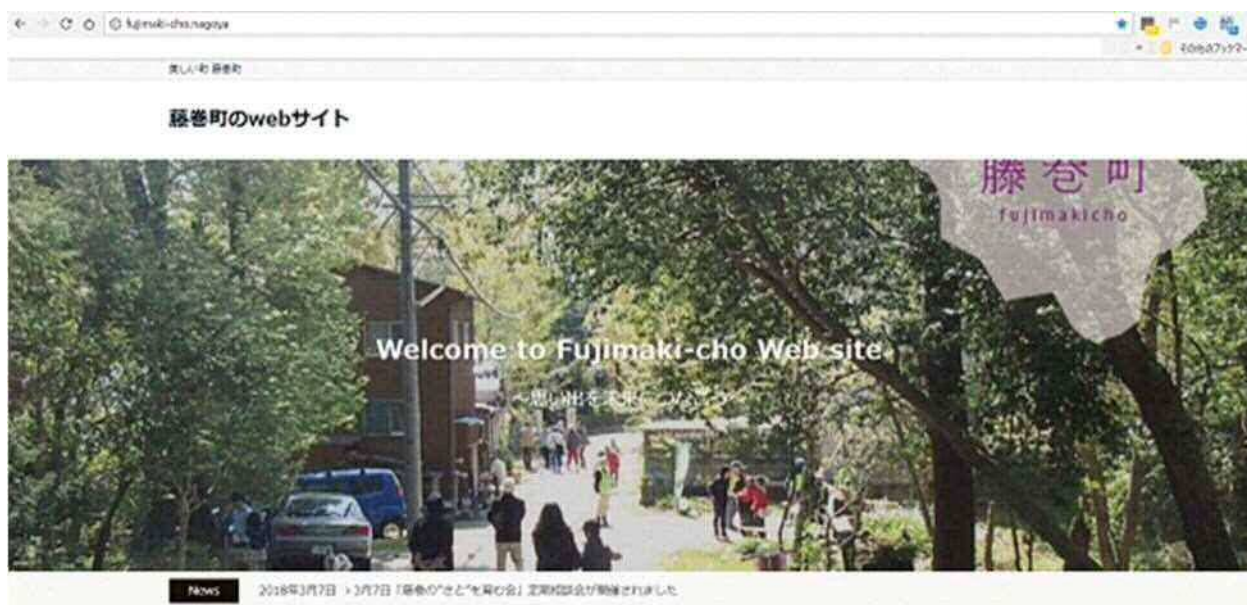
※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

まちづくり活動等の一般への情報発信の手段確立のため、PCだけでなくスマホやタブレットなどでも閲覧しやすいホームページの作成を専門家に依頼した。

ホームページ作成に関するアドバイザー（織田元樹氏）の派遣を受け、ホームページ作成依頼会社の人も同席の上、ホームページを作成するにあたっての記載内容、スタイル、運用等についての助言を受けた。

ホームページ掲載内容（サイト）の更新については専門家による講習会を2回開催し、複数の（有志）自治会員で月1回以上、緊急の場合は随時行えるような運営体制の構築をはかった。

ホームページは以下のURLでアクセスできます。 <http://www.fujimaki-cho.nagoya/>



HP仕様検討会



HP更新講習会

2 活動の成果および目標達成度合い

藤巻町（自治会）のホームページが出来上がり、一般に公開することができた。更新講習会により、有志の何人かは新規書き込み等が自由にできるようになったが、まだできてないものや、不慣れなものがあり、目標達成度は 70%程度である。町内の多くの人にも参画してもらいたいのので、第 2 回更新講習会を 3 月 17 日に開催する。

3 活動により見えた課題

回覧板にしても、ホームページにしても、見てもらわなければその役目を果たせないで、いかにホームページの存在を知らせ見てもらえるようにするかが課題である。また、ホームページを閲覧できる環境を持たない高齢者などに対する対策が必要である。

4 今後の活動等の展望

第 2 回ホームページ更新講習会により、多くの町民が記事の掲載が可能になり、情報発信が活発になると考えられる。また、若い世代の協力者の確保も期待される。高齢者等のホームページの閲覧環境のない世帯に対して、ケーブルテレビ会社等との協力により、町内全域を対象とした視聴可能手段を検討したい。

- ※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2 ページを超えないように作成してください。
- ※ 用紙の大きさは日本工業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。